



清泉女学院大学 トークイベント「リデザイン 信州文化」 Vol.4
公開学習会「『図書館・司書』をリデザインする」

「共に知り、共に創る みんなに開かれた広場」を目指して ～ 県立長野図書館の取組 ～



2022年12月3日 (土)
県立長野図書館 森 いづみ

清泉女学院大学による長野県内の高校生アンケート結果へのコメント

● 図書館司書に対するイメージはどこから？

- ✓ 図書館の利用（圧倒的多数） = 自分自身の経験から得たもの
（使ったことがある図書館：学校図書館と公共図書館が同じくらい）
- ✓ 他に、さまざまなメディアで描かれた姿（ドラマ、映画、アニメ）

トークセッションで
新しい姿が見えてくる
ことに期待

● 図書館司書ってどんなイメージ？

- ✓ 知的・静か > 冷静な・几帳面 > 頼りになる > 明るい・社交的

図書館で調査・相談をしている高校生から見た姿

● 図書館の仕事、知ってる？

- ✓ 整理・管理（圧倒的多数） > 貸出（次に多い） > 場所、教える、探す、読む、聞かせる、相談するなど

表からは見えない仕事に着目する高校生も多かった

● 図書館に行く目的は？

- ✓ 資料を借りる・利用する > 勉強する > リラックスする・涼む・暖まる

居場所としての図書館へのニーズも

※長野県内の高校30校に対して、在校生2,3年生にアンケートを実施。結果、28校から8,452件の回答を得た。詳細は後日発表予定。

或る日の図書館のできごと：それぞれの暮らし・ニーズに合わせて

中高生

勉強のため
友達と
来館



休憩がてら
館内を
ブラブラ



ジュニア向け
プログラミング
教室をみかける



参加はしないけれども
気になったので新しく始まった
サービスでプログラミングの電子
書籍を借りてタブレットで読む

働く世代

休日、
子どもの
本を借りに
来館



子どもは
ジュニア向け
プログラミング
教室に参加



コーヒーの
香りが
するので、
覗いてみる



地域の居場所
づくりを考える
イベントに
飛び入り参加



イベント後、
窓口で調査・
相談し、本を
借りる

シニア世代

地域の居場所
づくりを考える
イベントに参加
するため来館



イベントで
電子書籍や
地域資料の
デジタルアーカイブ
を知る

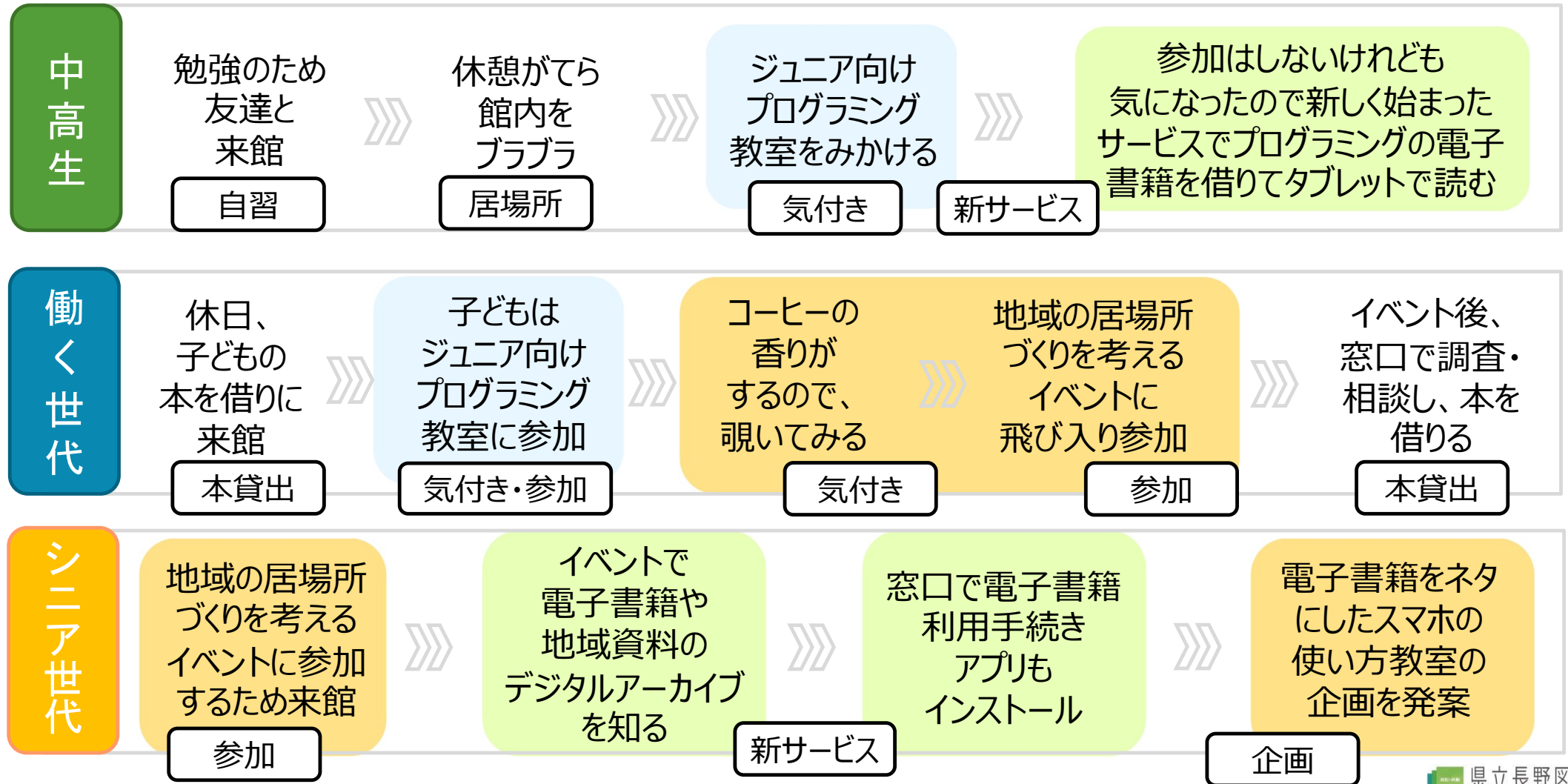


窓口で電子書籍
利用手続き
アプリも
インストール

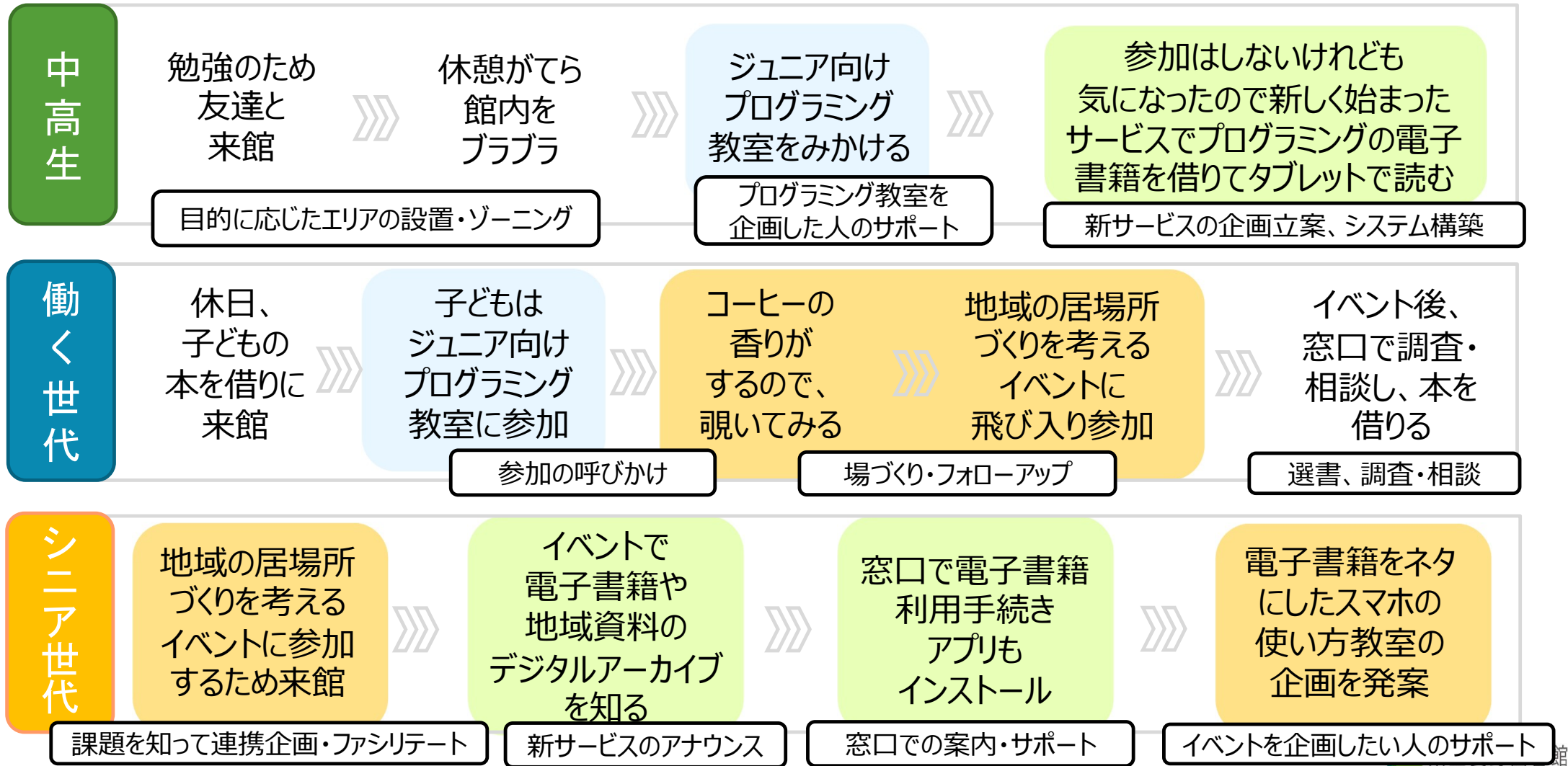


電子書籍をネタ
にしたスマホの
使い方教室の
企画を発案

或る日の図書館のできごとに見る「予想外の発見」や「緩いつながり」



或る日の図書館のできごとに見る「司書」「図書館」の新たな役割



県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場 (2021年7月16日策定)

事業計画 (Action Plan)

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

- (1) **資料・情報** : いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。
- (2) **空間・場** : 実空間である図書館の1～2階のフロア、3階の「**信州・学び創造ラボ**」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。
- (3) **人材育成** : 潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。
- (4) **長野県eLibrary計画** : 図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4つのカテゴリに分類し、それぞれ最適な方法でデジタル化・ネットワーク化を進め、図書館機能・サービスを進化させます。「**信州 ナレッジスクエア**」の拡充と、**電子書籍サービスの新規導入**の検討を重点的に進めます。

重点事業その①

重点事業その③

重点事業その②

※令和3年度 主要事業実施状況 (令和3年度第2回県立長野図書館協議会 資料No.2)

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/99/shiryō2.pdf>

重点事業その①「人・情報・空間」をつなぐ・・・開かれた広場

信州・学び創造ラボ

信州・学び創造ラボ 県立長野図書館

信州・学び創造ラボ

【活動のねらい】

- 「これからの図書館」における「空間」を切り口として、そこでの情報のあり方、情報と人の出会い方、人と人の出会い方（多様な学びのコミュニティの形成）などを試行する
- その成果を様々なモデルとして市町村立図書館・学校図書館等へ提案し、地域における情報拠点としてのこれからの図書館の姿を共に探っていくこと



学びの成果を
アウトプットする

モノコ
ベース

3Dプリンター、
UVプリンター、
レーザーカッター、
PC、展示棚 等



多様な情報や人がつながり
アイデアを形にしてい

Co-learning
ゾーン

ワークショップ用
テーブル・椅子、ベンチ
ミーティングブース
マイクロライブラリー
簡易キッチン 等



信州の知を集め、
つなぎ、創造する場

信州情報
探索ゾーン

六角形書架、
展示棚、
平置きタッチ
ディスプレイ、
信州白地図、
ホワイトボード
畳スペース 等



- 文部科学省
「図書館実践事例集～
地域の要望や社会の要請
に応えるために～」に掲載
(R2.3)

- 全国知事会
「令和2年度優秀政策」に
選出 (R2.9)

Labo.Cafe#9 うなずき珈琲（それいいね！の会）（2020年9月）

- 集まれる状態なら、集まる。でも、オンラインでの参加の窓も開く
- 誰かのやってみたいことが、自分のやってみたいことにつながり、広がる



次の
アクション
へ!

フリースクールを作りたい
若者たちと、NPO活動を長年
続けてこられたベテランさん
との出会い

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/labocafe_200920.html

Labo.Cafe#16 居場所をかんがえる会 高校生×図書館編 (2022年7月)

- 一人で集中したい時、友達と話したい時、みんなの居場所はどんな場所？
- みんなにとって、図書館って？ 学校内のどのあたりに位置しているかも重要
- ネット情報のほうが手っ取り早く、効率的？ 抜け落ちるものは？、リアルで繋がる良さは？
- SNSなら、本音が出せる？ リアルタイムもいいけど、一人でじっくり深く考える意味もある
- 活字離れは本当に起こっている？ どんな問題があるの？ 等々



学校でもない
家でもない、ある意味
匿名で社会と繋がれる
第3の場所 = 図書館

本の中に書かれた
人の思いを共有し、そこに
居場所を求めるために
読書活動はあり続ける



https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/labocafe_220724.html

重点事業その②市町村と県による協働電子図書館（「デジとしよ信州」）

令和4年版 2022

市町村と県による協働電子図書館

長野県民はだれでも いつでも どこからでも

パソコン・スマホ・タブレットで読む
電子書籍(コンテンツ)……77市町村で分担購入

電子図書館(プラットフォーム 本棚のような役目)……県立図書館で維持

協働電子図書館運営委員会

県立図書館
公民館図書室
市町村立図書館

電子図書館の窓口のない自治体の住民
県立図書館を通じて申請

電子図書館の窓口のある自治体の住民
住所のある自治体で申請

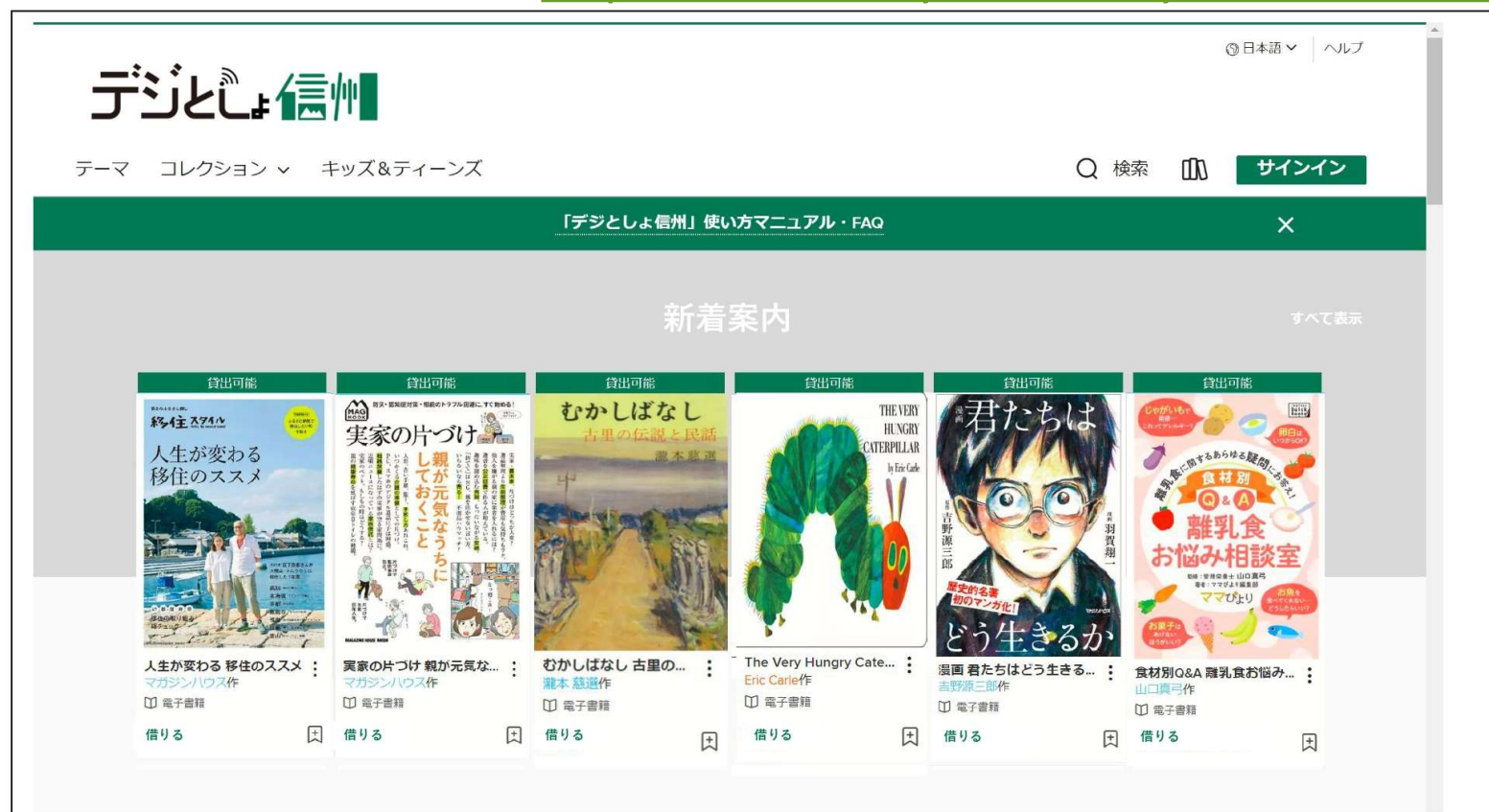
- 全市町村と県が協働する全国初のケース
宝くじ支援金をいただき、全自治体でスタート
- 長野県内に在住・通勤・通学している人は、誰でも、いつでも、どこからでも利用可能
- 当初コンテンツ数：
(青空文庫11,000点含む)
18,000点以上
→買い足していく
- 夏のDigi田甲子園：
長野県代表の一つとして
出場→ 第5位
[PR動画](#)（1分）
- デジタル庁
「デジタルの日」
広報ポスターに起用



市町村と県による協働電子図書館（「デジとしよ信州」）

<https://shinshu-kyodo-library.overdrive.com/>

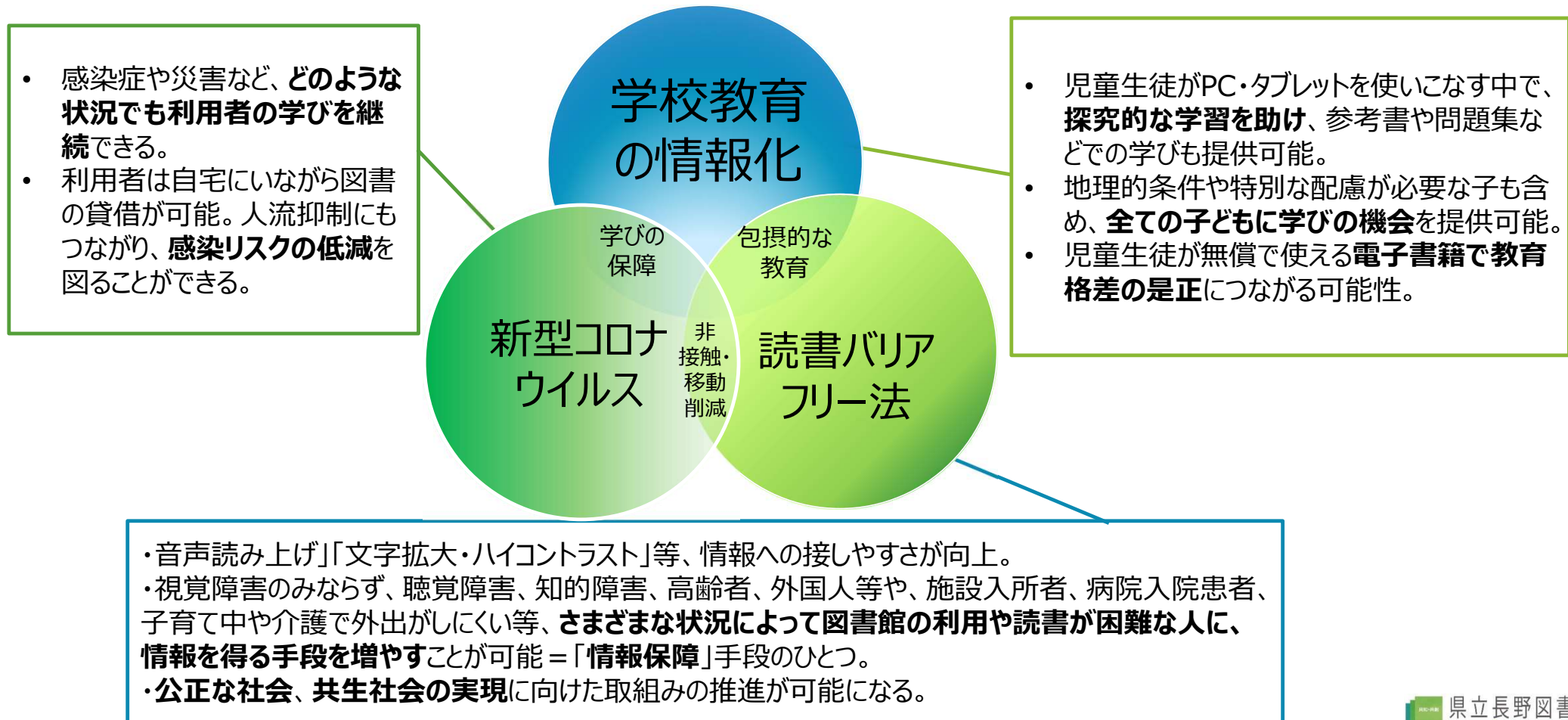
- 利用登録窓口は、全県で106カ所。電子申請も使える
- 一人一度に2冊まで1週間借りられる。予約も可能
- 自動返却で、返し忘れの心配なし
- スマホのアプリがある
- 文字を拡大するなどの機能がある



- 一般書の「デジとしよ信州」に加え、専門図書の電子書籍サービスを 県立図書館で提供

「電子書籍」サービスの導入で期待していること

「電子書籍」サービスの導入→3つの社会課題の解決の糸口

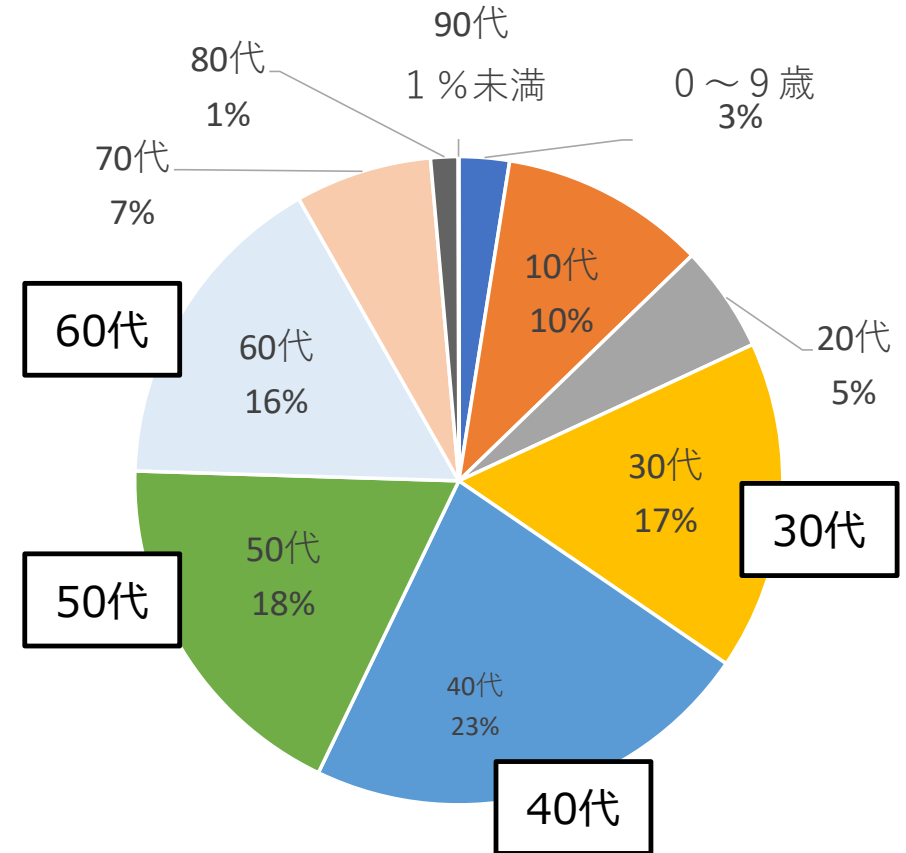


「デジとしよ信州」の利用実績（11月5日現在）

- **利用登録数**：8,324人
- **貸出数**：26,889冊
 - ✓ スタート当初と比べてやや落ち着くもののコンスタントに増加
- **貸出者年代**：
 - ✓ 貸出者の年代は全世代に及ぶが、40代が最も多く、全体の23%。
 - ✓ 30代～60代で74%を占める。一般的に公共図書館の利用は、子どもとシニアによく利用されるM字カーブを描く。従来は利用が少なかった年代にリーチできていると見ることができる。
 - ✓ 10代が約10%、20代が約5%と少ないが、10代は学校との連携によって、20代は大学との連携によって、今後利用が伸びることが期待される。

- 無精者で図書館に行く習慣も本を持ち歩く習慣もなかったが、隙間時間が読書タイムとなり、読書量が一気に増加。
- 普段読まないジャンルにも気軽に挑めている。
- 身近なサポート役として、地域の図書館に期待。

（「市民タイムズ」2022.10.2より）



貸出者の年代別統計

「デジとしよ信州」の主なターゲット（「コンテンツ選書の手順（コンテンツ内容）」より）

- 利用対象は全県民
- 事業目的にそって、特に以下の利用対象に資することに留意する
 - ✓ GIGA スクール構想等で、電子書籍を読むタブレット等を使いやすい環境にある
児童および青少年
 （IT リテラシーが高く、電子書籍を利用する障壁が低い傾向がある。
ただし、紙メディアや肉声の良さも考慮しながら、バランスよく活用していきたい）
 - ✓ リアルな図書館に足を運ぶことが困難な高齢者や、読書に関わる障害がある方
 （文字の拡大機能などがある電子書籍を、自宅などから居ながらにして利用できることで、
読書環境が改善されることが期待できる）
 - ✓ 開館時間に利用することが困難な子育て世代や働く世代
 （24 時間 365 日、来館することなく使える電子書籍によって、図書館の利用が
生活スタイルに馴染まなかった層の読書環境が改善されることが期待できる）
- 大切なのは、紙か電子かの2項対立ではなく、選択肢を拡げること

GIGAスクールの
キラーコンテンツ
として期待？

読書バリアフリーの一助に

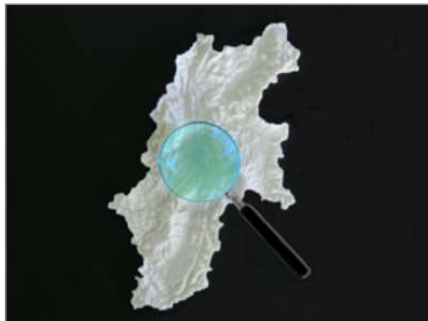
現在の強みをさらに活かし、
ターゲットごとに有効な広報を

重点事業その③「信州ナレッジスクエア」

- 多様な文化を持つ信州各地に蓄積されてきた地域情報資源のポータル。「ナレッジスクエア」とは「知識の広場」



1. **信州サーチ**：信州に関わるデジタルアーカイブ、データベース、ウェブサイトの横断検索
2. **信州デジタルコモンズ**：信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ
3. **想・IMAZINE・信州**：言葉や文章から連想して、複数のデータベースを検索
4. **eReading Books**：高校の探究学習『わたしたちの信州学』や、小学校の副読本『わたしたちの松川村』のテキストから、新書マップやWikipediaの情報と繋がる。
5. **信州ブックサーチ**：長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種も対象に



信州サーチ

世界から信州を探そう
県内外のデータベースやアーカイブの中から「信州」に関するところを探し出すことができます。上の検索窓から検索できます。



信州デジタルコモンズ

地域の記憶を記録する
信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブです。



想・IMAZINE・信州

連想の広がりを楽しもう
入力した言葉や文章からキーワードから連想するようにして、思いもしなかった文脈の新たな発見や発想が生まれます。



eReading Books

自分の根っこを確かめよう
本文中の単語やキーワードに関する情報を同時表示する「eReadingシステム」で、身近な地域を学ぶ資料を閲覧できます。



信州ブックサーチ

信州の図書館から本を探そう
長野県内にある図書館の蔵書データをつなぎ、探したい本がどこにあるかを素早く見つけられる検索サービスです。

「信州ナレッジスクエア」の「信州サーチ」→「信州デジタルcommons」



SHINSHU KNOWLEDGE SQUARE

善光寺

400件見つかりました。信州

絞り込み

すべて

アーカイブ

收藏情報

図書・論文

その他

POWERED BY カーリル

タイトル

- 善光寺伝記
- 善光寺縁起 巻...
- 善光寺縁起 巻...
- 善光寺御詠歌
- 善光寺靈応記

信州サーチで「善光寺」を検索

信州デジタルcommons

ホーム / 信州善光寺境内全図

信州善光寺境内全図



パブリックドメイン：
地域の歴史を学んだり、
二次利用して
新しいコンテンツを創る
材料として活用可能

資料コード	
タイトル	信州善光寺境内全図
分野	歴史
場所(市町村名)	
制作年(西暦)	1900
制作年(和暦)	明治33年
時代	明治
制作者	
制作者(ヨミ)	
大きさ	
資料解説	
二次利用条件	 PUBLIC DOMAIN
コピーライト	長野県立歴史館

「信州ナレッジスクエア」の「eReading」から広がる「知の循環」

- 『わたしたちの松川村』：小学校の郷土学習の副読本。付加価値付きの電子書籍化
- キーワードから、ウィキペディアの該当項目や新書マップにリンク

The screenshot shows a search interface with the following content:

- 安曇節** (あづみふし) は日本の長野県松川村。昭和37年(1962)に惜しまれつつ79歳で亡くなった。
- いわさきちひろ** (本名:松本 知弘) は、1918年12月15日 - 1974年8月8日、女性。子供の水彩画で有名。小学館児童出版文化賞受賞者。
- 安曇野ちひろ美術館** (あづみのちひろびじゅい美術館) は、小学館が1952年に創業30周年を記念して文学館として開館した。
- 中谷泰** (なかたに やすし) は、1918年12月15日、福井県武生市(現・越前市)で生まれ、東京に育つ。本名、知弘。父は軍属の建築技師。母は女学校教師。東京府立第六高等女学校を卒業。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。昭和21年(1946)、ちひろの両親が松川村(現・安曇野ちひろ美術館所在地)で開拓を始める。昭和31年(1956)、小学館児童出版文化賞受賞。初めての絵本の仕事として『ひとりてできるよ』(福音館書店)を描く。昭和33年(1958)、紙芝居『お月まいくつ』(童心社)を描き、翌年、厚生大臣賞受賞。昭和35年(1960)、『あいうえおのほん』(童心社)を描き、翌年、サンケイ児童出版文化賞受賞。昭和41年(1966)、黒姫高原に山荘を建て、以後、毎年ここで絵本制作を行う。昭和46年(1971)、黒姫山(くろひめやま)に山荘を建て、以後、毎年ここで絵本制作を行う。

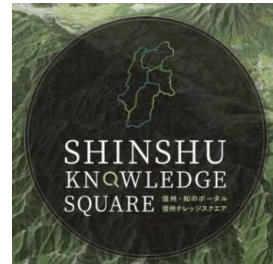
地域を学ぶテキストから、
ウィキペディアタウンで
まち歩きをして現地を訪れたり、
根拠となる文献を調べて
編集した内容にリンク
↓
知が循環する事例

ネットワーク上の信頼できる
情報にリンクしていれば、
より新しい情報にアクセス
することが可能！

知識循環・知的創造の基盤としての「信州ナレッジスクエア」

- 「信州デジタルコモンズ」 デジタルアーカイブジャパン・アワード 受賞 (2022年8月)

情報の蓄積



情報の活用

事例：

まつもとフィルムコモンズ
松本で撮影した8mmフィルムを
募集し、デジタル化して新しい
地域映画を作成
→信州デジタルコモンズで
二次利用可能な形で公開
できるよう、検討中

知の増殖型サイクル：
デジタルアーカイブの
知を利用し、
新しい知を創造する
→課題解決に生かす

活用した成果 = 新たな知が
生み出され、蓄積・循環



「つなぎ役」「二次利用しやすい形での情報公開」を評価していただきました

<https://blog.nagano-ken.jp/library/2022/08/26/>

なぜ、図書館が「知識循環・知的創造」の基盤を担うのか？

● 公立図書館の任務と目標

(日本図書館協会 1989年公表、2004年改訂)

- ✓ 公立図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資するとともに、住民が情報入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場である。

すべての年代の
人々の「知る・学ぶ・
創造する」場

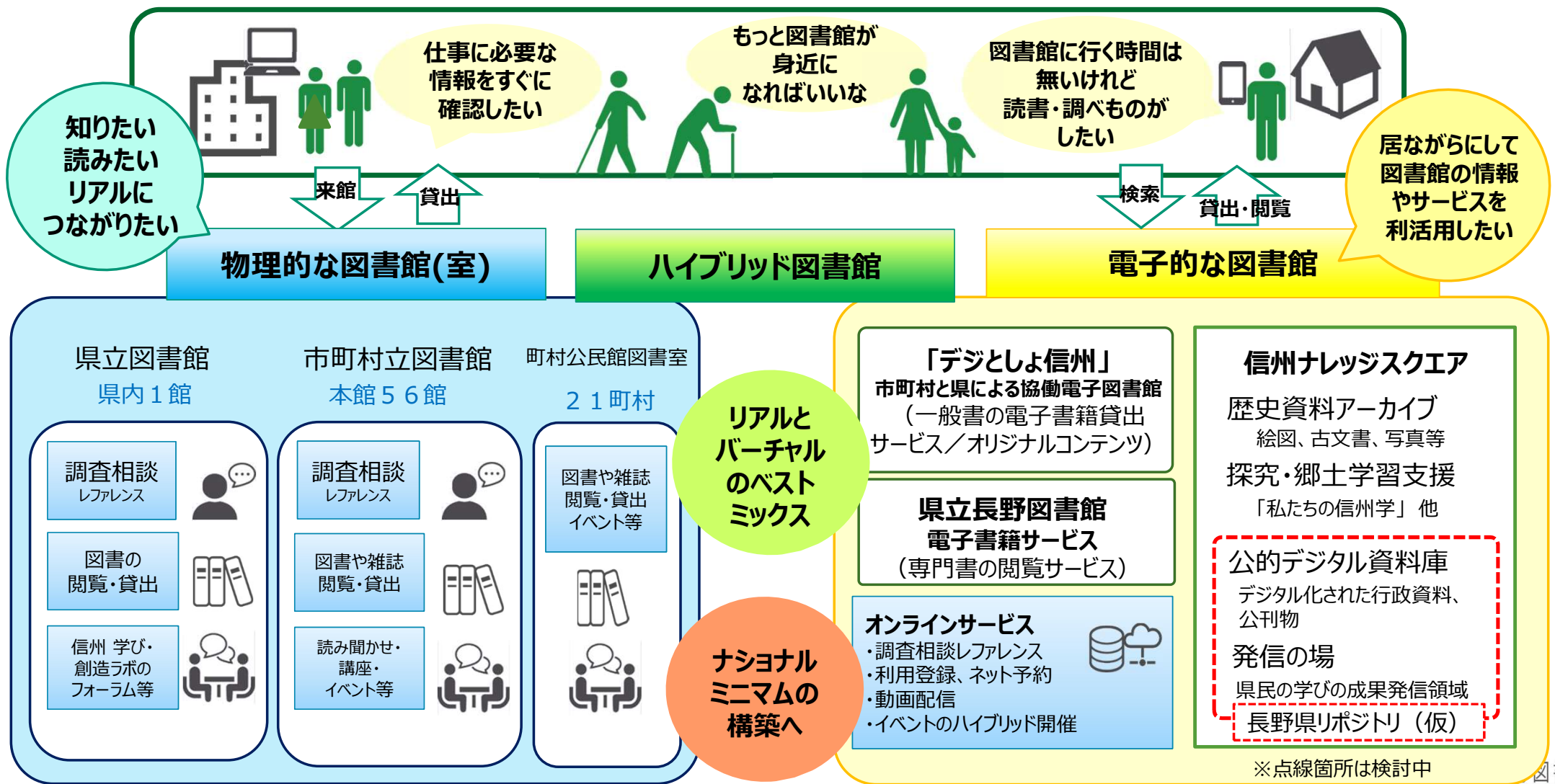
インプットだけではなく
アウトプットまでが
守備範囲

賑わい創出、
地域の課題解決など、
図書館という公共施設の
機能拡張への期待へと
つながる

地域に図書館が
あって良かった！と
思ってもらえる
存在へ

※ 自治体が設置する「公立図書館」と、法人等が設置する「私立図書館」を総称して「公共図書館」と呼ぶ。

だれ一人取り残さない公正な社会のために“図書館だから”できること



県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場 (2021年7月16日策定)

使命 (Mission)

県立長野図書館は、「共に知り、共に創る広場」として、
信州に関わるすべての人々が「自由に考え、意見を表明し、社会に参画し、意思決定することで、
個人と社会の幸福を追求する」という、民主的社会的な普遍的な価値を支えるため、
人類社会の文化的な発展と平和な世界に、将来にわたって寄与しつづけます。

ヒトコトで言えば
不易流行

展望 (Vision)

- 「知る」・・・情報の改革**：いつでもどこからでも、時間と空間を越えて、すべての人々が等しく情報入手し、活用し、成果を発信できるよう、人生を豊かにする創造的な学びの情報基盤を整え、情報格差を解消し、次世代へと継承していきます。
- 「出会う」・・・場の革新**：考え、対話し、体験することを通じて獲得できる「実感ある知」の循環を生み出し、新しい価値を創り出すために、実空間と情報空間が融合する、開かれた場を形成します。
- 「育む」・・・人の変革**：いかなる社会変化にあっても、「知る自由」「学ぶ自由」を保障する図書館の本質的機能を、技術革新を取り入れながら最適化し、最大限活用できる人づくりに貢献します。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

県立長野図書館の「ミッション・ビジョン」共知・共創の広場 (2021年7月16日策定)

行動指針 (Value)

Let's
re-design !

ライブラリーを
背負って
まちへですよ！

協働します : (Collaboration コラボレーション)

県内外の図書館や各種の文化施設・社会教育施設を始め、広く教育・学术界、産業界や社会的活動を行う人々と力を合わせます。

接続します : (Connecting コネクティング)

さまざまなコミュニティや人々が信州の自然や社会の営みの中で日々生み出す、「現場にある知」、「暮らしの中の知」を、つなぎ合わせます。

強みを生かします : (Competency コンピテンシー)

図書館の普遍的な役割である資料・情報の収集・保存・発信・活用について、専門的な知識・スキル・マインドを持つ職員を育成し、強みを生かして社会に貢献します。

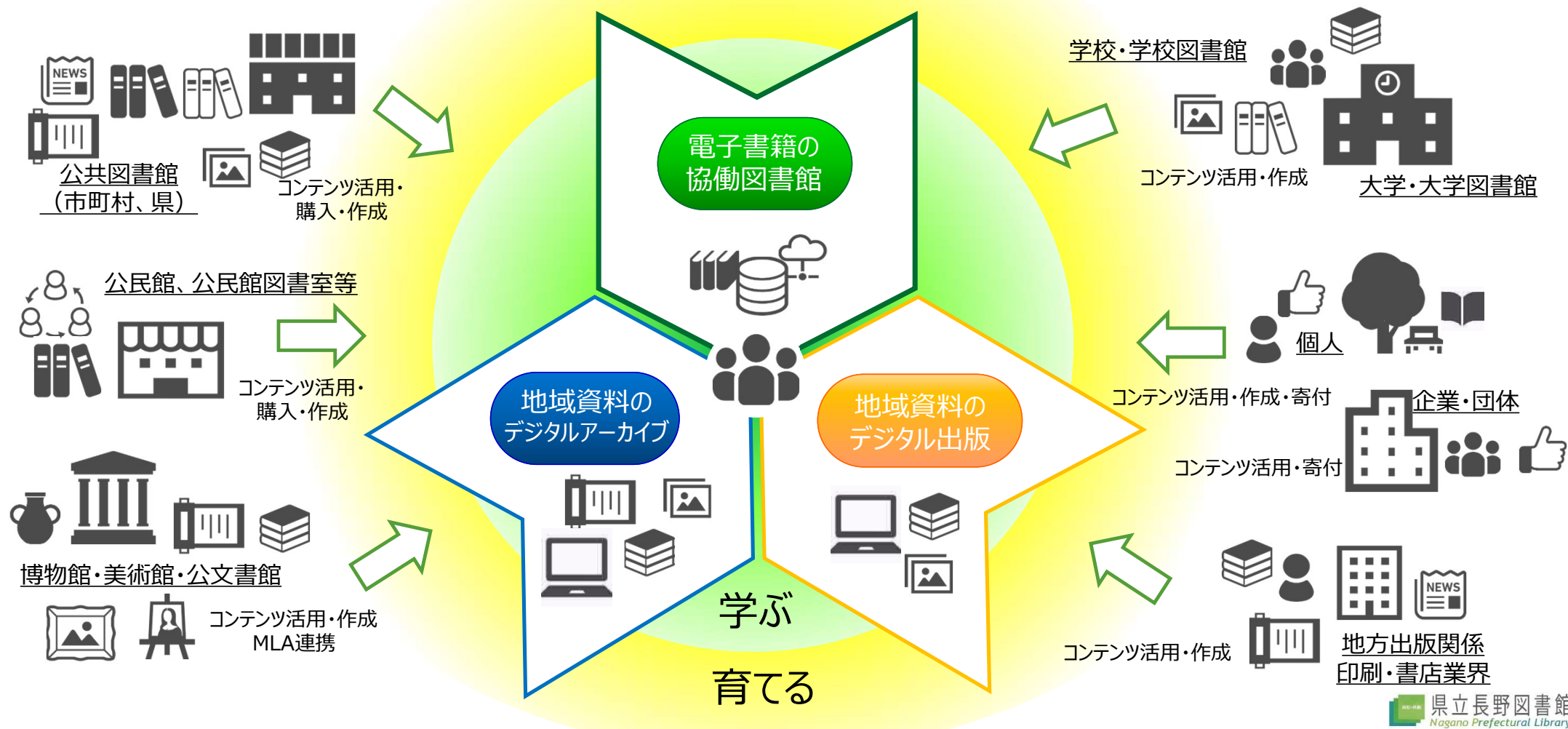
挑戦します : (Challenge チャレンジ)

市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長する、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/documents/96/r4_gaiyou_ocr.pdf

参考：目指していききたい将来像：

みんなで学ぶ・みんなで育てる「all信州電子図書館」= 地域創生へ



参考：子どもの読書活動の効果について

● さくまゆみこさん（翻訳家・日本国際児童図書評議会会長）

「こどもの本から世界を見れば・・・」松川村図書館読書月間特別イベント（2022年11月12日）

- ✓ 子どもにとって本は世界への窓。今、見える風景とは違う景色が見えることは、大切なこと。
- ✓ 国際児童図書評議会の創設者、イエラ・レップマンは、第2次世界大戦後、ナチスドイツの敵国だった国々に子どもの本の寄贈を依頼。「次の戦争が始まらないために」私たちができること

● 「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究 調査対象：20代～60代

～「読書離れ」の実態と、「読書好き」を育てるヒント～ 結果の概要

- ① 子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向がある。
- ② 興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通じた読書量が多い傾向にある。
- ③ 年代に関係なく、本（紙媒体）を読まない人が増えている
- ④ 一方で、スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスを使った読書は増えている。
- ⑤ 読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本（紙媒体）で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。

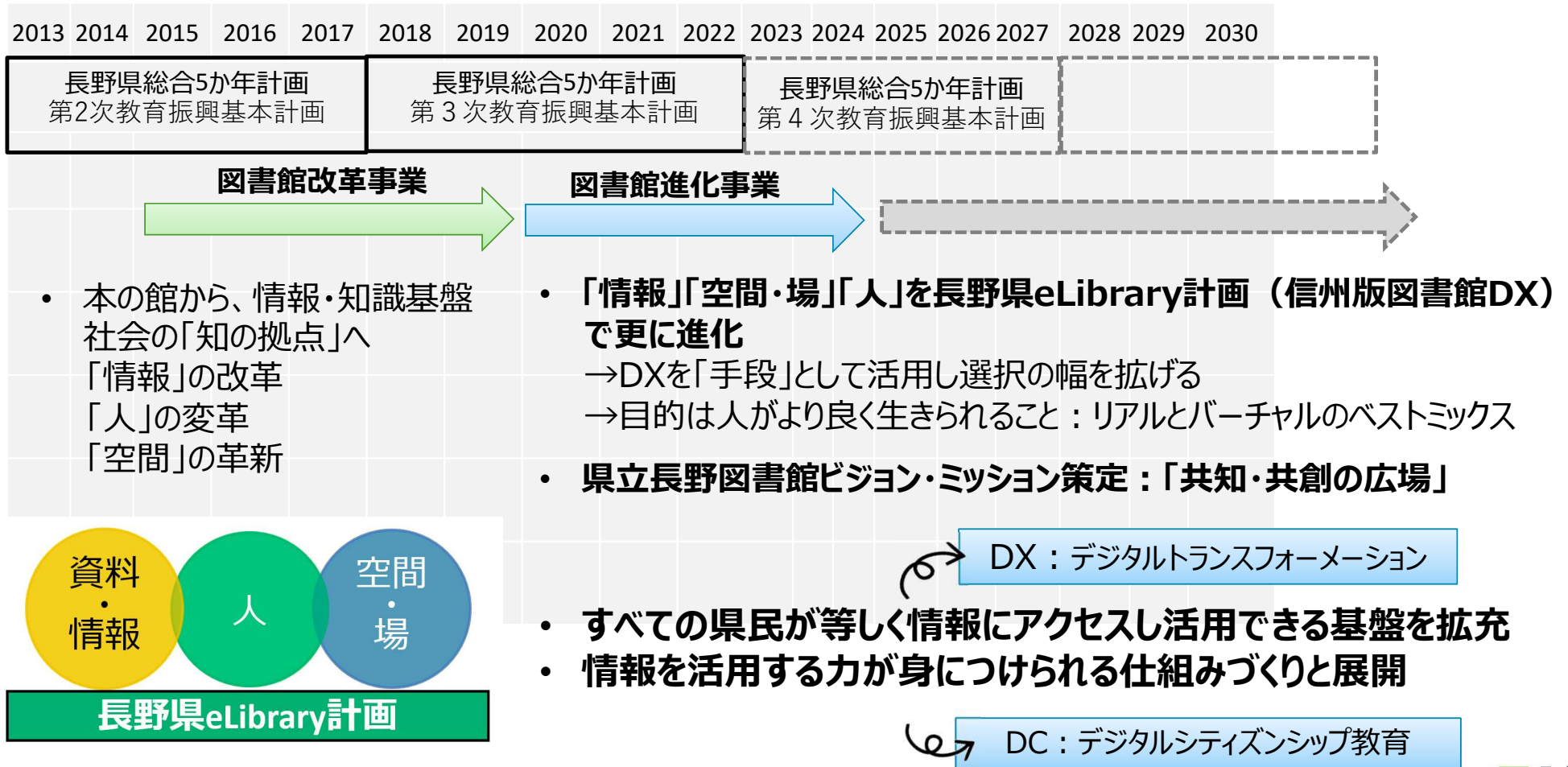
※ 子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究(令和3年3月発行)

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/155/

年代による違いあり

参考：中・長期的な方向性：図書館の3つの要素を進化させ課題解決に資する ²⁵

● 社会に共通する課題・地域に特有の課題・個人的な課題など



参考：DX（デジタルトランスフォーメーション）／DC（デジタルシティズンシップ教育）

● 図書館DX：伊藤大貴の視点・論点：

「ニューノーマルにおけるこれからの図書館－オンラインとオフラインの境界のない世界へ」『LRG』（2020年9月）

DXの定義

2004年
E. ストルターマン & A. クルーン
スウェーデン・ウメラ大学

ICTの浸透が、人々の生活（人生）をあらゆる面でよりよい方向に変化させること

- 哲学的（ソクラテス的）な概念
- 松尾芭蕉の「不易流行」（流行にこそ不易の本質がある）
- SDGs、ウェルビーイング、ウェルネスなどの考え方に共通点

45 INFORMATION TECHNOLOGY AND THE GOOD LIFE

Erik Stolterman
Anna Croon Fors
Umeå University

Abstract The ongoing development of information technology creates new and immensely complex environments. Our lifeworld is drastically influenced by these developments. The way information technology is intertwined in our daily life raises new issues concerning the possibility of understanding these new configurations. This paper is about the ways in which IS research can contribute to a deeper understanding of technology and the ongoing transfor-

DX

私たちの社会や生活を「よりよい方向」へ変化させる

DXを達成するには、単なるICTの普及ではなく
「ICTの健康的で、幸福な普及」が必要
そのためには、**教育の力も必要**

DC

↓

デジタル・シティズンシップ教育
(デジタル時代のよき市民を育む教育)

※ 3つのスライドの典拠：
芳賀高洋氏（岐阜聖徳学園大学）
「学校教育DXとデジタル・シティズンシップDC」から引用
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/003/927/2021-5siryou1.pdf

DXに至る3つの段階

第1段階 アナログの情報を、**デジタル情報に変換する**

★日本社会、とりわけ、日本の学校教育は長らく、この第1段階で停滞してきた

第2段階 組織や構造の**プロセスをデジタル化する**

第3段階 **社会と私たちの生活がよりよい方向に変化**

